

社員を募集してもなかなか集まらない。こんな悩みを持つ企業の人事担当者の間で話題になっている企業がある。

人材ビジネスを手掛けるアクシスコンサルティング（東京・千代田）。同社の外国人紹介予定派遣サービスは、テレビ電話で海外の応募者と面接、最初半年の「人材派遣」で、能力や働きぶりを評価。正社員として働くかが決まる。外国人は技術職でビザ（査証）を取得するが、日本企業の受け入れ先があるのでビザの取得・更新がしやすいという。

「人手不足の波は外国人採用拡大に行き着く」。

BRICS

×日本

けいざいの現場から

▼3

一年で、中国人を中心に約二十人を企業に紹介した。

正社員の採用増

新興国出身の外国人を正社員として雇う日本企業が増えている。厚生労働省の〇六年調査では、正社員など企業が直接雇用する外国人は前年比一・二%増の二十二万三千人。うち八割がブラジル、インド、中国、ロシアなどの新興国出身者

アクシス社長の山尾幸弘（44）がこの事業の準備を始めたのは二〇〇五年。景気回復で失業率低下が始まったころだ。上海や大連の人材会社とも提携。昨年の事業開始後